



診察室における言葉の玉手箱

【認知症編】

～第2回～

川崎幸クリニック院長
杉山 孝博

2. 診察を受けさせたいのですが、本人は嫌と言います

家族「私の母が、最近、同じことを繰り返したり、大事な約束を忘れたり、鍋を焦がすようになりました。認知症が心配になって、一度検査を受けましょうと勧めても、“私は病気じゃあない。嫌だ”と言って、聞いてくれません。何か良い方法はありませんか？」

医師「認知症は早く診断・治療することで症状の進行を遅くすることができますし、“治る認知症”と言われる慢性硬膜下血腫・正常圧水頭症・脳腫瘍などの疾患を手遅れになる前に治療できます。“我儘だ”“自分勝手だ”と思われていた本人の言動が“認知症の症状である”と分かることで家族の混乱が早く治まるものです。問題は、初期であればあるほど、本人の自覚（病識）がないことです」

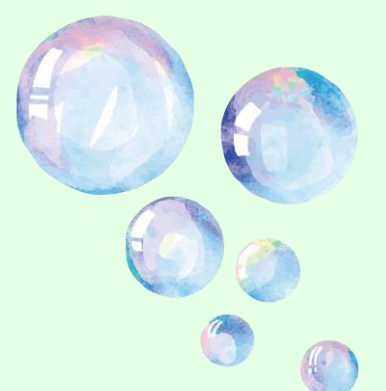
家族「私が気になる症状を説明しても、“年をとれば誰でもあること”と言って受け容れられません。強く勧めると“私を病人扱いするつもりか！”と、興奮します」

医師「お母さんに限らず、同じ状況であれば、誰でも同じ反応をしたいと思います。スムーズに受診してもらうためには、次のようなコツがあります。

- ① 初期で理解力のある認知症の人には、“精神神経科”には強い拒絶反応がみられるので、“もの忘れ外来”、“老年科”、“心療内科”、“神経内科”などを受診する
- ② 介護者が“私の健康診断に付き合ってください”とお願いする
- ③ 理解のある医師に訪問診療をしてもらう
- ④ 病院は嫌だと言う場合には、“保健所に健康診断に行きましょう”と誘う
- ⑤ 信頼を寄せているかかりつけ医に“知り合いのよい先生を紹介しましょう”と専門医への受診を勧めてもらう
- ⑥ 頭痛、だるさ、腹痛などの身体症状を訴えるとき、医師に依頼して認知症の検査を一緒にしてもらう

お母さんの場合は、あなたの健康診断に付き添ってもらうという形で診察室に入ってもらいましょう」

(つづく)





診察室における言葉の玉手箱

【認知症編】

～第2回（つづき）～

《後日、母と娘が受診。本人（母親）のカルテができているが、呼び入れる時は、本人の名前を呼ばないで、「佐藤さん、お二人、どうぞ」と呼び、娘を診察椅子に座らせる》

医師「（娘に向かって）最近疲れやすくなったのですか？それは心配ですね。診察しましょう。（血圧測定や聴診をしてから）血圧は126/64、聴診も異常ありません。問題ないと思います。よかったですね。」

（次に本人に向かって）お母さんは、血圧測定や健康診断を普段受けていますか？せっかくだから、血圧を測りましょうか？（娘と交代して椅子に座る。診察して）血圧は142/68で、聴診も異常はありませんでした。ところで、ある年齢になると、人やものの名前が出てこない、朝起きた時立ちくらみしやすいなどの症状が出てくるものですが、いかがですか？」

患者「顔は思い出せても名前が出てこないことはよくあります。先日、孫の名前が言えなくてショックでした。ふらつきもあります。やはり年ですかね」

医師「年をとれば誰でもあることですが、時々大きな病気が潜んでいることがあります。当院でしたら、今すぐ頭の検査ができ、結果も出せますが、受けてみませんか？」

患者「すぐにできるのであればお願いします」

《放射線科のスタッフが声をかけると、付き添いに来たという経緯を忘れて、頭部CTの検査を受ける。10数分後、診察室にて》

医師「頭部CTの結果が出ました。脳はクルミによく似ています。クルミを輪切りにしたと思ったらよいでしょう。一緒に見てみましょう。脳内出血・脳梗塞・脳腫瘍や、脳に血液や水がたまる慢性硬膜下血腫や水頭症などの大きな病気はありませんでした。安心してください。（一部の画像を示して）ここでは両脇の黒い部分が目立っていますね？」

患者「はい、目立っています」

医師「これは記憶の倉庫である側頭葉が萎縮していることを示しています。記憶の倉庫が狭くなったのですから、倉庫はこれまでの荷物で一杯になってしまい、新しい荷物（記憶）が入らなくなります。古い荷物はまだ残っているのですから、昔のことはよく覚えていますが、今のことはすぐ忘れても」

患者「先生の言われる通りです。昔のことはよく思い出せますが、最近のことは忘れます」

（つづく）





診察室における言葉の玉手箱

【認知症編】

～第2回（つづき）～

医師「記憶力のチェックもしておきましょう。改訂長谷川式簡易知能評価スケールというものです。気楽に答えてください」

《検査を実施する。この段階になると、本人の違和感は皆無となっている》

医師「結果は、30点満点中21点でした。軽い物忘れの段階（20～24／30点）に当たります。もの忘れがこのまま進行すると大変ですから、進行を抑える薬を使ってみましょうか？」

患者「お願いします」

医師「4種類の薬があるのですが、症状が落ち着いているからですから、朝食後1錠服用する薬を使ってみます。初めは、副作用をチェックするために用量の少ない薬を服用することになっています。1週間後を予約しておきますから、受診して下さいね」

患者・娘「どうもありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます」

